

SBIインシュアランスグループ株式会社

2025年3月期第1四半期決算説明の要旨（2024年8月）

関連資料

1. IRTV「2025年3月期第1四半期決算の概況」（動画）（2024年8月9日）

掲載先 URL： <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

当社社長による当四半期決算の説明の要旨を以下に記載いたしました。必要に応じてご参照ください。よろしくお願いいたします。

（前略）

<連結業績>

- ・ 8月8日に公表した25年3月期第1四半期決算についてご説明します。
- ・ 当第1四半期の「経常収益」は、前年同期比10.8%増加の309億1千6百万円でした。
- ・ 四半期にあたる3か月間の「経常収益」としては過去最高金額、直前四半期の24年1-3月期に続き、2四半期連続で300億円超の収益を計上しました。
- ・ 「経常利益」と「親会社株主に帰属する四半期純利益」は、前年同期比で5%ほどの減少ですが、こちらは、前年同期の利益が、一過性要因の影響で普段より大きくなっていましたので、それとの比較ではわずかに届かなかったということです。一過性要因の影響を除いた利益は、引き続き増加していますので、後ほど、詳しくご説明します。
- ・ 当年度までの5年度の各第1四半期の「経常収益」の推移をご覧ください。当社グループでは保有契約件数が堅調に積み上がっていますので、保有契約から得られる「収入保険料」も

それと連動して増加しています。これにより、営業開始から現在まで一貫して、増収のトレンドが続いています。

- ・「保有契約件数」は、前年同月末比 8.5%増加の 287 万件、3 事業共に増加が続いています。
- ・「収入保険料」も 3 事業共に増加が続き、11.3%増加の 267 億 2 千万円でした。
- ・当年度までの 5 年度の各第 1 四半期の「経常利益」の推移です。前年同期の 39 億 6 百万円が上に突出していますが、これが一過性要因の影響を受けた部分です。1 年で 39.5%の大幅な増加となっています。
- ・一過性要因は、当社の「生命保険事業」で利用している再保険に関連する責任準備金の一部取崩しです。保険会社は、お客さまの経済的なリスクを保険契約で引き受けていますが、保険会社 1 社で引き受けきれないリスクがある時や、引き受けたくないリスクがある時には、保険に入ることによってリスクの一部または全部を他の会社に引き受けてもらいます。この保険会社が入る保険を再保険と呼びます。当社の「生命保険事業」は、医療保険の一部について、将来、保険金支払いが増加するリスクを軽減するため、再保険を利用しています。前年同期にこの再保険を一部見直して保有リスクが軽減された結果、そのリスクに備えるための責任準備金もより小さい金額で済むこととなり、一部が取崩しとなりました。取崩した金額は、会計上、収益として取り扱われますので、前年同期の利益が押し上がりました。当四半期には、このような一過性要因はありませんので、前年同期と比較すると 5%の減少ですが、前々年同期の 28 億 1 百万円と比べると当四半期の「経常利益」は 32.5%も大きくなっています。一過性要因の影響を除いた実態としては、前年同期の利益が下がり、当四半期は増益となっているということです。
- ・「四半期純利益」の推移も同様です。前年同期は、その前年から 1 年で 5 割増しになっています。当四半期は、前年同期比では 4.7%の減少ですが、前々年同期と比べると 44.6%の大幅な増加で、一過性要因の影響を除くと増益ということです。

<セグメントごとの経営成績>

- ・「四半期純利益」を事業別にご覧いただきます。
- ・「損害保険事業」は、前年同期比 23.4%増加の 17 億 6 千 7 百万円でした。
- ・「少額短期保険事業」は、82.5%増加の 1 億 7 千 9 百万円でした。
- ・一過性要因の影響がある「生命保険事業」は、前年同期比は減少です。ただし、同事業は、事業規模の拡大で収益性が高まっており、一過性要因の影響を除いた保険収支は 57.5%増加して約 15 億円でした。

<通期の連結業績予想>

- ・当社は、今年 5 月 9 日に当年度通期の連結業績予想を公表しています。その予想値に変更はありません。「経常収益」は 6.1%の増加予想を、「経常利益」・「純利益」は、それぞれ、12.9%・24.1%の増加予想を据え置いています。
- ・第 1 四半期の業績は、概ね当初予定どおりに推移しており、通期では前年度を上回る水準で着地する予想です。
- ・一過性要因の影響がある「生命保険事業」も、足元の順調な業容拡大に加え、一部商品の収支の改善で既に積み立ててある責任準備金の一部が年度末に取り崩しとなる見込みでもあり、通期は増収増益と見込んでいます。
- ・「経常利益」は、前年度通期から 10 億円増加の 93 億円が予想金額です。「親会社株主に帰属する当期純利益」は、前年度通期から 3 億 5 千万円増加の 18 億円が予想金額です。
- ・最後までご視聴いただき、ありがとうございました。